

令和5年度 宮崎県立美術館運営状況評価票（令和4年度の実績評価）

A: 目標を大きく上回った(120%以上) B: 目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C: 目標を下回った(60%以上90%未満) D: 目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R4年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見(概要)	総合評価
① 収集・保存	① 作品の購入及び寄贈作品の受入	作品の購入点数	1点	5点	○一般財源によりアンドレ・マッソンの版画集1件(作品5点)を購入した。既収蔵作品との比較展示等、作家をより深く理解するために活用が期待できる。 ●円安の影響が大きく、基金を活用した購入を見送った。今後の基金の有効活用のため、購入可能な作品の積極的な情報収集と精査を引き続き行う。	A	A	<p>■美術品等取得基金の有効活用が、今後の大きな課題だと思う。作品の収集活動は美術館活動の根幹である。円安もあり厳しい面もあると思うが今後とも一層進めていただきたい。</p> <p>■評価票の項目と、年報の運営ビジョンを照らし合わせると、評価表にはその項目がないものが何か所があるが、何か意図があるのか。</p> <p>→評価票については、年間の目標を立ててやらなければいけないような項目を挙げている。若干整理をしているところがあり、すべてが同じではない。</p>	A
		寄贈作品の受入点数	1点	6点	○企業や作家の遺族等からの寄贈の申し出について調査を行い、瑛九の作品2点と日本画の根井南華の作品3点及び日高牧仙の作品1点を収集した。 ●寄贈の相談や申し出については、収集方針に基づき確認、検討の上、適宜調査を行うなど、対応していく。	A			
	② 作品の修復等	作品の修復又は額装	1点	3点	○長谷川三郎の版画「交響詩霽日」について、丁番部分や裏面の凹み傷の補強、糊差し、補彩等を行った。また、瑛九の寄贈作品2点の額装を行った。 ●予算内で行える範囲で優先順位をつけて実施しているため、複数の作品の修復を保留している。	A			
		③ 保存環境の整備	外部委託による環境調査	2回	2回	○計画的に調査を行い、概ね結果は良好であった。メンテナンス休館中は定期的に職員で清掃を行うことで環境保全に対応できた。空中浮遊菌の調査時は音が出るため開館前から行い、一般来館者への影響を防ぐことができた。			
燻蒸(新収蔵及び館外使用後の作品に限る)	2回		2回	○計画的に2回行うことができた。空調の工事と重なって室温のコントロールに関し、業者の機材を持ち込んで室温調整をしたが、作品の安全などに気をつけ作業を行うことができた。 ●ガス検知の警報器は毎回調整してもらおうが誤作動がある。活性炭の交換時期のため次回までに行う。	B				

令和5年度 宮崎県立美術館運営状況評価票（令和4年度の実績評価）

A: 目標を大きく上回った(120%以上) B: 目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C: 目標を下回った(60%以上90%未満) D: 目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R4年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見(概要)	総合評価
② 調査研究	① 研究紀要の発行等	研究紀要の発行やインターネット等での公開	1回	2回	○令和4年度に作成した2本の論文と、ホームページ上のみで公開していた平成30年度以降の5本の論文を併せて、研究紀要Vol.10を発行した。令和4年度の2本の論文は、ホームページ上でも公開した。 ●印刷、製本にかかる費用も考慮し、冊子にまとめ発行する年度の設定や、印刷・製本の必要性も含め、検討していく。	A	A	<p>■ネットやホームページ上だけの発表ではなくて、実際に紀要を発行したというのは、大変な努力だったと思う。冊子体で様々な施設に収められることも大事なことである。今後もこの方向性は継続してもらいたい。</p> <p>■「作品解説等の執筆」の課題として「調査研究のための時間確保が長期的な課題である」とあるが、今後の見通しとしてどう考えているのか。また、担当は、美術館の職員なのか、どの程度の人数や時間で作成しているのか。</p> <p>→研究論文の執筆は、美術館職員である学芸員が行っている。学芸員の業務は多岐にわたっており、日々の業務の中で研究時間の確保が非常に難しい。その中でも、例えば、一週間に研究時間を2時間確保するといったことを計画的に各担当者が取り組んでいる。</p>	A
	② 郷土作家等の情報収集及び作品調査	情報収集及び作品調査	7件	9件	○展覧会や作品収集に関連して、郷土作家を含む9作家(瑛九、湯浅英夫、根井南華、加藤正、白髪一雄、藤野忠利、日高牧仙、小早川秋聲、山元春挙)について訪問等による情報収集及び作品調査を行った。 ●継続して調査を行う人員や時間の確保などの工夫・改善に努める必要がある。	A			
	③ 作品解説等の執筆	作家・作品調書の作成	14件	14件	○新収蔵作家・作品や展示頻度の高い作品を中心に、調査や解説文の執筆を行い、展示の際の掲示物や各種広報などに活用できた。 ●担当業務の合間を縫っての調査・執筆となるため、調査内容等にやや不十分なものもある。調査研究のための時間確保が長期的な課題である。	B			
	④ 講義・鑑賞会等の実施	講義・鑑賞会等の実施	10回	15回	○コレクション展では、1回のギャラリートークを行った。2本の特別展と1本の小企画展では、計11回のギャラリートーク、1回のレクチャートークを実地した。 ○特別展に関連した講演会を2回開催した。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ギャラリートークの一部をアートホールでのスライドトークに変更するなど工夫して実施した。	A			

令和5年度 宮崎県立美術館運営状況評価票（令和4年度の実績評価）

A: 目標を大きく上回った(120%以上) B: 目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C: 目標を下回った(60%以上90%未満) D: 目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R4年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見(概要)	総合評価
③ 展示	①コレクション展の開催	コレクション展の開催	4回	3回	<p>○各展示室で様々なテーマや切り口により、魅力ある展示空間を提供できるよう工夫している。概ね良い意見や好評の感想をいただいている。</p> <p>○鑑賞者数については、メンテナンス工事による休館(10月31日～1月16日)をはじめ、新型コロナウイルス感染症拡大による影響があったものの、当年度のコレクション展の鑑賞者総数は昨年度を13%上回る実績(約2,757人増)であった。</p>	C	B	<p>■コレクション展に関しては、人数も前年度を上回り、子供だけではなく愛好者にとっても面白い展示になっていた。メンテナンス工事や新型コロナ対応もやってきた上で、このC評価は厳し過ぎる印象を受けた。</p> <p>白髪一雄展は、県立美術館でなければできないような展覧会だった。作家の代表的な作品紹介にとどまらず、本県との関係も入れたのは非常に良かった。瑛九とデモクラートについて深めていく上でも重要であり、人数だけではなく内容も評価されてもよい。</p> <p>■特別展に来る観覧者をコレクション展へ誘導できれば、コレクション展も観覧者が増えるのではないか。コレクション展は年に数回展示替えされているが、県民には伝わっていないのではないか。広報や誘いの在り方を工夫ができればと思う。</p> <p>■旅する美術館は、美術館から離れた市町村に住む子供たちに本物とふれあう機会を提供するよい企画である。もっと増やすことはできないのか。また、対象の地域はどこを設定しているのか。</p> <p>→旅する美術館の開催増については、予算の関係もあり厳しい。対象地域は、県内を北部、南部、中部の3か所に区切り、万遍なく開催している。様々な事業で県内を回っており、ほぼすべての市町村に行っている。</p> <p>■旅する美術館がきっかけとなり、子どもたちの作品ももっとみんなに見てもらおうと「街なかギャラリー」という新しい活動が私たちの町で始まった。とてもよい企画だと思う。</p>	B
		年間鑑賞者	28,000人	23,891人	<p>○例年、多くの家族連れで賑わうコレクション展第2期の「たのしむ美術館」の鑑賞者は14,785人で、前年度を9,076人上回った。</p> <p>●コレクション展については、例年、年4回展示替えを行うが、空調設備改修工事に伴う長期のメンテナンス休館のため3回となった。</p> <p>●年度間目標を達成できるように所蔵作品や作家の研究を進めるとともに、コレクションの内容充実にも努め、また有効な活用及び効果的な告知方法や見せ方などを工夫する必要がある。</p>	C			
	②特別展の開催	特別展等の開催	3回	3回	<p>○特別展として「尼崎市コレクション 白髪一雄 一行為にこそ全てをかけて」、「ホキ美術館名品展 一写真 永遠の存在感」小企画展として「宮崎県立美術館コレクション企画展 めぐりあう個性」を開催した。</p> <p>○特別展「尼崎氏コレクション 白髪一雄」は、尼崎市が行う「白髪一雄発信プロジェクト」に併せ、巡回展の内容に加えて、白髪の宮崎県作家とのつながりや、本県での足取りを紹介することで、独自の特色を出すことができた。</p>	B			
		年間鑑賞者(全特別展合算)	50,000人	46,470人	<p>○特別展「ホキ美術館名品展」は、ホキ美術館が所蔵する作品の中から選りすぐりの作品65点を紹介し、4万人を超える観覧者が訪れた。</p> <p>○コレクション企画展「めぐりあう個性」では、当館のコレクションを中心に、瑛九、豊嘔、塩月桃甫ら相互に刺激を与え合った作家たちの巡り会いやつながりを、約60点の作品により紹介した。</p>	B			
		自主企画展等(特別展示を含む)の開催	特別展のうち1回	1回	<p>●当年度に開催した3つの特別展等の鑑賞者総数は、前年度開催した3つの特別展の実績より、約30,000人ほど上回ったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による入場制限等により年間鑑賞者総数は目標を下回った。</p>	B			
	③館外展示の実施	館外展示の開催	2回	2回	<p>○「旅する美術館・旅してアート」として、西米良村と西都市の2会場(計10日間)で収蔵作品・資料21点(西米良16点、西都18点)を展示・紹介した。両会場とも開催地による併催イベントとの相乗効果もあり、西米良村では人口比35%近くが鑑賞されるなど、2会場合計で1,255人の入場があった。</p> <p>○幼児から年配の方まで幅広い年齢層の方が鑑賞され、アンケートの感想には、西都会場も含め、宮崎市にはなかなか行けないので近くで開催されるのがありがたい、もっと開催してほしいといった意見や、著名な画家の作品を直で間近に見られたことへの感謝の声が多く、好評だった。また、美術館の雰囲気とは違って気軽に見られてよかったという声もあった。</p>	B			

令和5年度 宮崎県立美術館運営状況評価票（令和4年度の実績評価）

A: 目標を大きく上回った(120%以上) B: 目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C: 目標を下回った(60%以上90%未満) D: 目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R4年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見(概要)	総合評価
④教育普及	①成人向け講座等の実施	成人向け講座等の参加者	200人	330人	<p>○特別展「ホキ美術館名品展」の出品作家によるアートトークは、ワークショップも含んだ魅力ある内容で実施できた。(2回59人)。</p> <p>○県外講師を招聘し、県内で体験できる機会の少ない実技講座「染色」と「磁器」を実施した(8日間44人)。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場となるアートホールの収容人数を制限して講演会を実施したが、回数を増やすことで対応できた。白髪一雄展(2回90人)、ホキ美術館名品展(1回80人)、みやざき総合美術展(1回57人)。</p>	A	B	<p>■自分も講座を受けたくて申し込んでいるが、なかなか受講できないくらい非常に人気が高い。まだまだ希望者が大勢いるかと思うので、その点も考慮していただきたい。野外の彫刻付近で読み聞かせ等、美術と本や、絵本と物語をつなぐといった活動ができると、公園利用者も気軽に美術を楽しむ時間ができるのではないだろうか。</p> <p>■教育普及・施設利用等の利用者数について、コロナ禍前の平成30年度と比べてまだまだ及ばない。どのような理由があるのか。</p> <p>→コロナ禍においては、不特定多数の人が触るようなものを提供できないため、大勢が参加できる自由参加型のワークショップ等が開催できなくなったのが大きな要因である。</p> <p>■アートシアター及び映像ブースは、当時は最新ではあっても機材が古くなってくると活用ができないということだと思う。この施設を今後どうするかも含めての評価が議論に繋がっていけばいいと思う。</p>	B
	②子ども向け教室等の実施	子ども向け教室等の参加者	500人	643人	<p>○自由参加型の鑑賞教室が定番化し、回を重ねるごとに参加者が増加している。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、材料セットの配付や人数と時間を制限しての実施ではあったが、計画していた7教室全てを実施することができた。</p> <p>●感染症拡大防止や感染状況を鑑み、短時間でできる内容や材料セットの配付で対応できる内容としたため、活動が十分ではない教室もあった。</p>	A			
	③美術図書室・映像施設等の充実	図書・映像等施設の利用者	2,500人	942人	<p>○アートシアターでは、団体向けに当館オリジナル映像番組を上映したり、こども美術館DAY開催中に、アーティスト制作のアニメーションを上映したりした。</p> <p>●美術図書室、アートシアターとも臨時休館や新型コロナウイルス感染症拡大により閉室した期間があり、目標を大きく下回る利用者数となった。</p> <p>●美術図書室は、感染症対策のため入室人数や滞在時間、他館ちらし等の設置を制限したため、利用者のニーズに十分にこたえられなかった。</p> <p>●アートシアター、映像ブースについては機材の不調があり、使用頻度も高くないため抜本的な見直しが必要である。</p>	D			
	④館外での教室・講座等の実施	館外教室・講座等の参加者	200人	193人	<p>○旅する美術館の会場近隣の小中高校を訪問し、美術館オリジナル映像番組の鑑賞や造形体験等を行う「旅する美術教室」を実施した。</p> <p>○児童、生徒から「作品を作る時にすごくワクワクした」「瑛九の作品を見てみたい」との感想があり大変好評であった。</p>	B			

令和5年度 宮崎県立美術館運営状況評価票（令和4年度の実績評価）

A: 目標を大きく上回った(120%以上) B: 目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C: 目標を下回った(60%以上90%未満) D: 目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R4年度実績値	内部評価			外部評価		
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見(概要)	総合評価	
⑤ 広報・発信	①広報誌の発行	広報誌の発行	3回	3回	<p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため内容変更になるイベントもあったが、記事内容の差し替え等で対応して予定通り年3回発行することができた。</p> <p>○11月からの長期休館のため、10月号の残部が多く出るのはないかと心配したが、休館前後の展覧会やイベント等で積極的に配布したこともあって、通常とほぼ変わらない残部であった。今後も展覧会やイベントの関連記事が掲載されていることを分かりやすく掲示するなどして配布に努めたい。</p>	B	B	<p>■昨年度もだが、今年度もSNSの発信がすごくよい。特別展での団体予約状況を知らせることで、観覧者の利便性に供するなど、SNSならではの活用が進んでいる。</p>	B	
	②ホームページ等の充実	ホームページのアクセス数	180,000回	202,881回	<p>○様々な人数制限や対策を講じながらも展覧会やイベントを実施できるようになり、前年度に比べてアクセス数は向上した。</p> <p>●空調設備改修工事のために休館した11～12月は、アクセス数が減少した。</p>	B				
		SNSによる情報発信	100回	118回	<p>○目標を上回る情報発信を行うことができた。</p> <p>○当館フェイスブックは、アカウントがない方は閲覧できない状態だったため、11月にページを移行した。また、インスタグラムを開設し、より多くの方に情報を届けられるようになった。</p> <p>●旧フェイスブックページには1,500人を超えるフォロワーがいたが、新ページ、インスタグラムともに十分に周知されていない。今後フォロワー数を増やしていくための手だてが必要がある。</p>	B				
	③関係機関への情報提供	プレスリリース		10回	12回	<p>○コレクション展や特別展の開催毎、また、アウトリーチ事業等について、その都度情報提供を行った。</p> <p>●新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした事業も多かったため、目標値にとどまった。</p>				A
		情報誌等への情報提供		140回	154回	<p>○定期的な情報提供のほか、単発の提供依頼もあり、ほぼ目標通りの発信ができた。</p> <p>●定期的な提供を行っている媒体であっても、効果的な広報につながるか疑問を感じるものもあるため、今後も継続して提供をすべき媒体や提供内容の整理が必要である。</p>				B
④広報資料の提供	広報資料の提供(発送)		5回	5回	<p>○発送作業については、担当専門員を中心に準備等を計画的かつ体系的に行うことで、スムーズに行うことができた。</p> <p>●年度の早い時期の展覧会は、印刷物の作成や発送の単価契約など新年度にならないと準備できないものもあるため、発送による広報とは別に、何らかの手だてを講じる必要がある。</p> <p>●前売りに伴う展覧会は、2か月前の発送が原則となるが、時期によっては発送契約が困難なことがあり、対応が課題である。</p>	B				

令和5年度 宮崎県立美術館運営状況評価票（令和4年度の実績評価）

A: 目標を大きく上回った(120%以上) B: 目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C: 目標を下回った(60%以上90%未満) D: 目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R4年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見(概要)	総合評価
⑥ 連携・参画	①地域におけるアウトリーチ事業の実施	地域でのアウトリーチ事業の実施回数	2回	5回	○「旅する美術館・旅してアート」事業において、当館の収蔵作品展を開催した西米良村や西都市近隣の小中高等学校5校で、映像番組上映や日光写真による簡単な作品制作体験を行った。	A	B	■旅する美術教室は、県内に小・中学校だけで400校近くあるので、もう少し開催を増やせるとありがたい。	B
	②他の文化施設や学校教育、ボランティア等との連携	他館・施設との連携による取組	3件	3件	○都城市立美術館と霧島アートの森との連携会議を実施し、各館の運営状況や取組等について情報交換を行った。 ○県立芸術劇場、県立図書館、県博物館との4館見学ツアーを2団体実施した。 ○県立文化施設6館によるイベントカレンダー年間2回発行した。 ○県博物館等協議会による総会や研修会等に参加した。 ●アートラインカードの3館のスタンプラリー達成者や、4館見学ツアーの利用者が近年減少傾向にあり、広報を充実させる必要がある。	B			
		学校向け美術教材の貸出	9件	8件	○貸出しを希望する学校からの直接の申込みには適宜貸出対応を行った。 ●劣化が激しく差し替えが必要な教材も多々ある。今後リニューアルを検討する必要がある。	B			
		美術館サポーターの活動	延べ70人	延べ121人	○全3回のサポーター全体会議を開催し、情報交換や活動内容等についての協議を深めることができた。 ○新規サポーターを募集したところ、6名の登録があった。 ○新聞スクラップ、屋外彫刻清掃、子ども美術教室等に参加してもらうことができた。 ●新型コロナウイルス感染症拡大後の活動再開に向けて、詳細な活動内容を検討していく必要がある。	A			
		インターンシップ等の受入れ	1件	2件	○キャリア教育に係る就業体験の場として、生徒の実習を受け入れた。展示室やインフォメーションでの来館者対応業務の補助や講座等の準備、備品等の確認や補修など、様々な体験実習を提供・実施した。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からインターンシップ自体を見送る学校もあったが、高等学校2校、合計6名の生徒を受け入れた。	A			
	アトリエ利用者数		150人	62人	○開放日の稼働率は高かった。利用者のリピート率も高く、定期的に制作を楽しむ様子が見られた。 ●臨時休館や新型コロナウイルス感染症対策に伴う閉室のため、開放日自体が例年に比べると少なくなった。また、1室あたりの利用人数を制限したこともあり、利用者数は伸びなかった。	D			

令和5年度 宮崎県立美術館運営状況評価票（令和4年度の実績評価）

A: 目標を大きく上回った(120%以上) B: 目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C: 目標を下回った(60%以上90%未満) D: 目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R4年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見(概要)	総合評価
	③創作・発表の場の提供	県民ギャラリー稼働日数	180日	197日	<p>○限られた貸出し期間であったが、リピーターを中心に利用者(団体)があった。</p> <p>●施設の老朽化により展覧会会期中に照明の不具合があり、対応に苦慮することがあった。</p> <p>●大型エレベーターの使用が故障のため一定期間手動で動かすことになり、利用者にも、これまでと違った対応を求めざるを得ない場面があった。</p>	B			
	④みやざき総合美術展	応募点数	1,200点	1,141点	<p>○本展の特色の一つである自由表現部門への出品点数が増加傾向にある。</p> <p>○75歳以上の出品者が28%を占めるなど、生涯学習の発表の場として生かされている。</p> <p>●高校生や一般の若い世代(~40代)の出品点数増に向けて、本展の魅力が伝わる広報やイベントを充実させる必要がある。</p>	B			
		鑑賞者	6,500人	6,334人	<p>○前年度から282名の増となった。アンケートでは、72%の来場者から展覧会について満足との回答を得ている。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、表彰式は入賞者全員を対象に、7部門を午前と午後に分けて2回実施した。</p> <p>○感染症拡大防止対策を取りながら、記念講演会や関連イベントをすべて実施することができた。</p> <p>●来館者アンケートの回答者のうち60歳以上の割合が57%を占めており、若い世代の観覧者数が少ない状況がうかがえる。</p>	B			

令和5年度 宮崎県立美術館運営状況評価票（令和4年度の実績評価）

A: 目標を大きく上回った(120%以上) B: 目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C: 目標を下回った(60%以上90%未満) D: 目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R4年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見(概要)	総合評価
⑦ 人材育成	①職員の人材育成等	県外研修・視察への派遣割合	50%	50%	○業務上参加可能な研修には、できるだけ参加し、職員間での情報共有に努めた。県外での研修は、オンライン形式で参加可能なものについては、可能な限り参加した。	B	B	■博物館実習について、博物館施行規則改変で館演実習と学内実習が義務付けられたため、学芸員資格から撤退した大学も多く、受入件数に影響が出ていると考える。見直しも進んできており、今後、実習は多くなってくると思う。	B
	②博物館実習の受入	実習希望者の受入割合	100%	100%	○博物館実習については、本県出身の学生1名を受け入れた。県総合博物館の博物館実習生の見学や、宮崎大学の博物館関連の講義・見学についても受け入れ、学芸職員が講義等を実施した。 ●県内美術館における博物館実習の希望者が少なくなっている状況がある。県外大学に在学している学生に向けて、本県出身者も受け入れている旨をホームページに掲載しているが、関係大学等への周知も検討したい。	B			
⑧ 管理・運営	①施設・設備の適切な管理	防災研修・避難訓練等の実施	100%	0%	●メンテナンス休館や、空調設備改修工事のための臨時休館があり、消防用設備の保守点検は実施したが、自衛消防訓練を行わなかった。 ●特別展における監視員に対し、緊急時に備えた対処要領について朝礼等で説明を行ったが、今後は、現状に合わせたマニュアル等も整備する必要がある。	D	C	■自衛消防訓練を行わなかったとある。マニュアル等の整備も必要とあるが、今後どのように対応するのか。 →4年度に自衛消防訓練ができなかったため、5年度は早い段階で実施できるよう計画し、5月に訓練を実施した。マニュアルも策定し、各監視員に説明も交えて手交した。	C
		検査等の指摘事項への対応	100%	100%	○監査等における指摘事項は特段なかった。 ○空調設備改修工事(冷温水発生機2基、冷却塔1基の更新)を行った。開館当初導入された設備等において、老朽化等により更新が必要なものについては、引き続き検討を行っていくこととする。 ○経年劣化により故障したものについて適宜修繕を行った。	B			
	②施設の積極的な活用	施設見学者の受入れ	4,000人	3,145人	●令和3年度と比較すると、175人の増となっているものの、目標値にはとどかなかった。 ●展示室への人数制限を行ったことや対話型鑑賞の中止に加え、新型コロナウイルス感染症の影響で利用キャンセルとなった団体もあり、学校団体や一般団体の受入れは減少した。	C			
		アートホールの活用	270人	168人	○利用団体へ開催中の展覧会を案内し、鑑賞者数増に努めることができた。 ●使用許可基準を「県や市町村が主催・後援する公共性、公益性を有する内容」としたことにより、一般の利用者は例年より少なかった。 ●新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入場人数を120人から60人に制限したことにより、利用者は減少した。	C			